

「第2回 多様な森林づくりの“見える化”プロジェクト」現地検討会

九州森林管理局と大分森林管理署が連携して取り組んでいる「多様な森林づくり」の諸課題や改善策を検討する“見える化”プロジェクトの現地検討会を、7月12日～13日、大分森林管理署管内の国有林で有識者や県の保安林担当者等と交換実施しました。第2回目となる検討会は、昨年度設定した「見える化」区域を育成複層林等へ誘導するための施業方法等について有識者の意見を求めるものです。

1日目は署会議室で最初に局計画課長等から本プロジェクトの概要等について説明しました。

有識者からは、面的複層伐の群状配置面積2.5haの規模の根拠や複層伐後の将来的な施業イメージなどについて意見がありました。



大分森林管理署での会議



現地検討の様子

2日目は、天然力を活用して針広混交林への誘導を計画している現地に移動し、意見交換を行いました。

有識者からは「地表は、シカの生息数が高い地域であると推測され天然更新は厳しい状況。現地に存在する中間層の広葉樹をなるべく残す方向での伐採が望ましい。」また、「谷部の搬出路作設は、土砂流出防止や生物多様性の観点からもなるべく避けた方が望ましい。」などの意見がありました。

次に面的複層伐によるスギ人工林の誘導試験地では、「次期の伐区区割り等を書き入れ、将来の森林イメージを示した方が良い。」「数年後結果がどのようになったのか、失敗の事例も含めて記録を残し検証して欲しい。」等の意見が出されました。

2日間で出された有識者の様々な意見を参考に、今後も引き続き局と連携して事業を進めることとしています。